

目からウロコの 投資動向

角川 総一氏

安定運用を旨とする時期に高い流動性を確保し、つづ、少しでも高い金利を得ようとした場合、有力な選択肢になるのがMF（マネー・マネージメント・ファンド）、MRF（マネー・リザーブ・ファンド）です。い

ずれも追加型公社債でも自由に購入、解約できるという高い流動性を持ちます。MRFは購入、

ゼロ金利時代の資産運用

③

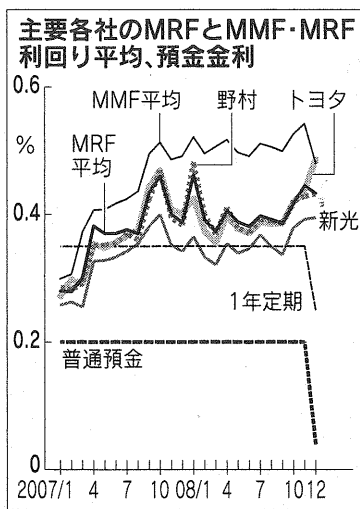
益を個人にも還元しようとする商品です。

安全性で優位なMRF

入れたほうが利回りが高いのは当然です。

課せられており、元本割れのリスクは限りなくゼロに近い商品です。たとえ組み入れる金融資産の満期までの期間につい

配率は、普通預金よりも一年定期をさえ常に上回って推移しています。ただし、MMFはかつて複数のファンドが元本割れを起こしたことがあることに加え、昨今では米国でも類似商品で元本割れが出ています。わずかでも元本割れを許さないというのなら、MRFが無難でしょう。



とも大差ない運用を行っているのですが、それでも直近で〇・二%程度の差はあります。各社別の分配率の差は主に二つの要因によるものです。一つはファンドが組み入れている債券などの満期までの平均期間の長短です。たとえば相対的に高い分配率を示しているトヨタMRFの組入資産の平均期間は四十五日です。これに対して新光MRFの場合は三十二日、移普通預金、一年定期預金と比較してみます。両商品を運用している主要各社の平均的な分配率を比較してみます。つまり、長期の金融資産ほど高利回りである時期に長期資産を組み入れたほうが利回りが高いのは当然です。